

令和6年度

事業報告書

社会福祉法人 福島福祉施設協会

I 事業報告

1. 福祉施設経営

総合的な福祉施設の経営団体として、合理的かつ能率的な施設経営を行うとともに、地域住民や利用者の要望に対処するように努めた。地域社会と密接な連携を保ち、施設機能の活用を図りながら地域福祉の向上に努めた。

2. 法人運営

- (1) 社会福祉法人としての重要な役割を果たすべく、経営意織をもって事業運営に関する透明性が向上できるよう諸規程を整備した。
- (2) 利用者の立場にたち、多様化するニーズに的確に対応出来るように満足度調査を実施し、自主的改善に努めた。
- (3) よりよい福祉サービスを提供するため、職員が心身ともに元気に働ける職場を目指した健康づくりや職員の処遇改善全般の向上に努めた。

3. 重要な取り組み

- (1) 法人経営の安定的な継続や地域社会への説明責任を果たし信頼を高めるため、中長期計画に基づき施設整備及び事業を行った。
- (2) 会計監査導入に向けた取り組みとして、固定資産物品の管理台帳等の整備に努めた。
- (3) 多様な人材の雇用として、関係機関と連携し障がい者の継続的な雇用と採用に努めた。
- (4) 災害時の避難先確保のため避難場所提供の覚書を基に安全対策を講じた。
- (5) 職員の人材確保と定着に努めるとともに、各種研修を通じ社会福祉理念、技術の習得向上など法人全体の福祉サービスの向上に努めた。
 - ・全体研修 インターネットセキュリティ研修 (2回)
 - ・中堅職員研修 「『伝える力』の向上」 (5回)
 - ・児童厚生員研修 社会人基礎研修 (1回)
- (6) ハラスメント外部相談窓口を設置し、予防対策や早期発見への取組みと対応を行った。
- (7) 法人本部と職員との個別面談を実施し、施設や職員の現状を把握し、より良い職場環境の整備に努めた。
- (8) 事業継続計画（BCP）の整備と見直しを行い、継続的なサービスの提供ができる体制を整えた。
- (9) 山形県議会こども支援・女性若者活躍対策特別委員会の依頼による現地調査を受け入れ、女性の活躍や働きやすい職場づくり等の取組みについて報告した。
- (10) 健康診断後の二次健診を徹底、ストレスチェックの実施、健康便りの発信により職員の心身の健康づくりに努めた。
- (11) 計画的な年次有給休暇の取得を促進し、周知徹底や実績調査の実施により確実な年次有給休暇取得に努めた。
- (12) 全施設にUTMを導入し、インターネットセキュリティを強化した。
- (13) 広く当協会を知ってもらうため、SNS等インターネットを活用した広報活動を積極的に行った。

4. 評議員会・理事会・監事会の開催

(1) 評議員会

定時 令和6年6月25日(火)

協議事項

議案第1号 令和5年度各会計決算承認の件

報告事項

報告第1号 令和5年度事業報告

臨時 令和7年3月27日(木)

協議事項

議案第2号 役員等報酬規程の一部変更の件

(2) 理事会

第1回 令和6年6月7日(金)

議案第1号 令和5年度事業報告承認の件

議案第2号 令和5年度各会計決算承認の件

議案第3号 福島恵風園デイサービスセンター(指定地域密着型通所介護)運営規程の一部変更の件

議案第4号 福島恵風園デイサービスセンター指定第1号通所事業(通所型サービス)運営規程の一部変更の件

議案第5号 児童センター管理運営規程の一部変更の件

議案第6号 福島市わたりふれあいセンター管理運営規程制定の件

議案第7号 福島恵風園職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第8号 介護職員等の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第9号 令和6年度各会計資金収支補正予算(第1回)

議案第10号 定時評議員会招集事項決定の件

報告第1号 職務の執行状況について

第2回 令和6年6月25日(火)

議案第11号 職員給与規程の一部変更の件

議案第12号 無期雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件

議案第13号 臨時雇用職員の雇用等に関する規程の一部変更の件

議案第14号 令和6年度各会計資金収支補正予算(第2回)

第3回 令和6年10月7日(月)

議案第15号 給与規程の一部変更の件

議案第16号 無期雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件

議案第17号 保育所職員に対する処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

議案第18号 令和6年度各会計資金収支補正予算(第3回)

第4回 令和7年1月27日(月)

議案第19号 福島恵風園職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件

- 議案第 20 号 令和 6 年度各会計資金収支補正予算（第 4 回）
 報告第 2 号 職務の執行状況について
- 第 5 回 令和 7 年 3 月 14 日（金）
- 議案第 21 号 令和 6 年度各会計資金収支補正予算（第 5 回）
 議案第 22 号 職員服務規程の一部変更の件
 議案第 23 号 職員給与規程の一部変更の件
 議案第 24 号 無期雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件
 議案第 25 号 臨時雇用職員の雇用等に関する規程の一部変更の件
 議案第 26 号 就業規則の一部変更の件
 議案第 27 号 保育所職員に対する処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件
 議案第 28 号 介護職員に対する処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件
 議案第 29 号 児童センター及び福島市わたりふれあいセンター職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件
 議案第 30 号 事務局職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件
 議案第 31 号 福島恵風園デイサービスセンター（指定地域密着型通所介護）運営規程の一部変更の件
 議案第 32 号 福島恵風園デイサービスセンター指定第 1 号通所事業（通所型サービス）運営規程の一部変更の件
 議案第 33 号 保育所管理規程の一部変更の件
 議案第 34 号 令和 7 年度事業計画策定の件
 議案第 35 号 令和 7 年度各会計資金収支予算
 議案第 36 号 令和 6 年度第 1 回臨時評議員会招集事項決定の件
 議案第 37 号 施設長等選任の件
- 第 6 回 令和 7 年 3 月 27 日（木）
- 議案第 38 号 役員等賠償責任保険契約締結の件
 議案第 39 号 福島恵風園給食業務委託契約締結の件

(3) 監事会

令和 5 年度事業における業務執行、財務状況監査
 令和 6 年 5 月 28 日（火）・29 日（水）

5. 役員等研修会への参加

- (1) 令和 6 年度 社会福祉法人理事研修
 主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会
 期 日 令和 6 年 9 月 25 日（水）
 場 所 オンライン研修
 出席者 小野 美和
- (2) 令和 6 年度 労務協会下期研修会
 主 催 協同組合福島中小企業労務協会

期 日 令和6年10月17日(木)

場 所 ウエディングエルティ

出席者 木村 六朗

(3) 令和6年度 福島県経営協セミナー(後期)

主 催 福島県社会福祉法人経営者協議会

期 日 令和7年3月5日(水)

場 所 ビッグパレットふくしま

出席者 熊坂 淳一

6. 職員研修の実施

(1) 令和6年度 インターネットセキュリティ研修

期 日 令和6年5月22日(水)、5月30日(木)

講 師 ㈱ヨシダ 菅野 雄貴氏

場 所 オンラインまたは協会会議室(選択)

内 容 インターネット使用時のセキュリティに対する基礎知識

参加者 施設長・必要な職員 25名

(2) 令和6年度 階層別研修(正規職員 中堅層)

① 令和6年7月24日(水)

② 令和6年8月28日(水)

③ 令和6年9月18日(水)

④ 令和6年10月23日(水)

⑤ 令和6年11月20日(水)・11月21日(木)

講 師 ㈱ネクサス 代表取締役 杉村 基樹氏

場 所 福島福祉施設協会 会議室

内 容 コーチングコミュニケーション研修

参加者 コーチング研修未受講の35歳以上の正規職員 19名

(3) 令和6年度 社会人基礎研修

期 日 令和6年12月17日(火)

講 師 ㈱ネクサス 研修トレーナー 遠藤 知里氏

場 所 協会会議室

内 容 基本的なビジネスマナーを理解し、協会職員の一員として求められているサービスの質を共通認識しながら現場で活躍する

参加者 児童センターの常勤児童厚生員 10名

7. 苦情受付

(1) 令和6年度苦情受付件数

施設区分	件数	内 容
高齢者施設	5件	対応4、施設管理1
保育所	4件	保育サービス2、送迎者のマナー2
児童センター	2件	対応1、こども同士のトラブル1
合計	11件	

(2) 主な苦情内容

保育所	苦情申出人	地域住民
	苦情内容	送迎時の保護者の自動車のマフラー改造による排気音が煩くて困っている。保護者への注意喚起と騒音対策を行ってほしい。
	処理内容	苦情内容を職員間で共有し、該当保護者へは苦情の内容を伝えた。保護者からは、謝罪と十分気を付ける旨の話があった。

8. 職員の状況（令和7年3月31日現在）

年齢構成

	70代	60代	50代	40代	30代	20代	合計
令和6年度	5人	43人	82人	66人	43人	27人	266人
令和5年度	4人	38人	84人	66人	44人	27人	263人
前年比	1人	5人	△2人	0人	△1人	0人	3人

職員区分

	正規職員			無期転換職員			臨時雇用職員			合計		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
令和6年度	4人	67人	71人	1人	36人	37人	12人	146人	158人	17人	249人	266人
令和5年度	4人	67人	71人	1人	40人	41人	12人	139人	151人	17人	246人	263人
前年比	0人	0人	0人	0人	△4人	△4人	0人	7人	7人	0人	3人	3人

9. 地域における公益的な取組

① 地域の要支援者に対する相談支援

内 容：地域住民や利用者（保護者）等に対する相談支援

取組施設：全施設

② 地域の要支援者に対する資金や物資の貸付・提供

内 容：福祉器具やAED、レクリエーション器具等の貸出

取組施設：福島恵風園、福島恵風園デイサービスセンター、全保育所、全児童センター

③ 既存事業の利用料の減免

内 容：低所得者に対し利用者負担額を軽減

取組施設：福島恵風園デイサービスセンター

④ 地域の福祉ニーズを把握するためのサロン活動

内 容：デイサービスの一日体験や子ども食堂事業

取組施設：福島恵風園デイサービスセンター、福島市野田児童センター

⑤ 地域住民に対する福祉教育

内 容：福祉人材の育成を目的とした実習生やボランティア等の受入れ

取組施設：全介護保険事業所、全保育所、全児童センター

⑥ 地域の関係者とのネットワークづくり

内 容：地域団体や町内会との連携及び参画

取組施設：全児童センター

⑦ 福祉に関する情報発信

内 容：子育てや保育、介護に関する情報発信（SNS 利用を含む）

取組施設：全施設

⑧ 地域の清掃活動

内 容：周辺の道路や近隣の公園等の清掃及び除草、除雪

取組施設：全児童センター

Ⅱ 実績報告

養護老人ホーム 福島恵風園

1. 運営管理

- (1) 施設の感染症対策をした環境の中で、快適な生活を送れるよう工夫した。
- (2) 介護の必要な入所者は介護保険サービスを利用し、機能の維持を図った。
- (3) 被虐待高齢者、一人暮らしによる生活苦の高齢者、身元引受人のいない高齢者などを積極的に受け入れた。
- (4) 100名の定員を充足するため、生活支援を必要としている高齢者を入所につなげるよう福島市、他市町村、地域包括支援センターに働きかけた。
- (5) 養護老人ホーム運営に係る要望書として、県北地方4か所の養護老人ホームが連名で、福島市、桑折町、川俣町へ要望活動を行った。
- (6) 「福島市あらかわクリーンセンター」からの給湯を活用した。
- (7) 給食業務を日清医療食品株式会社に継続委託した。
- (8) 避難訓練（火災・水害・地震等）を実施した。
- (9) 福島恵風園拠点における非常災害対策にかかる事業継続計画（BCP）に基づき、合同で避難時想定訓練を実施した。
- (10) 法人内の介護保険事業所と定期的に連携会議を開催し、各事業所と情報共有した。

2. 職員体制

- (1) 職員間の共通課題意識向上のため、各種研修会（オンライン・対面）に参加した。
- (2) 夜間専門員の確保が困難な状況が続き、職員の夜勤回数が増加し日中の職員が少ない状況が慢性化した。

3. 施設整備

- (1) 屋外広告物（誘導看板）新設工事
- (2) 食器消毒保管庫入替
- (3) 徘徊センサー 6箇所設置（施設機能強化推進費）
- (4) トイレ洋風便器改修 5箇所

4. 健康管理

- (1) 新型コロナウイルス感染症に、10月に発生したクラスターにより入所者14名と職員1名の計15名、2月に入所者1名の合計16名が感染した。
- (2) 定期健康診断、結核検診、インフルエンザ予防接種を実施した。
- (3) インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス感染症予防のための啓発、各所の消毒、加湿、検温など予防に努めた。

- ・インフルエンザが発症した場合の予防薬投与について承諾を得た。
 - ・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症流行対策のため、地域の感染状況に応じ都度、外出制限を行った。園内での面会・オンライン面会は通常通り実施した。
 - ・新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを改訂した。
- (4) 感染症対策として、正面玄関・職員玄関での検温消毒、職員の検温、消毒環境の充実に努めた。
 - (5) 熱中症予防のための啓発・水分補給を行った。
 - (6) 食中毒防止のための啓発に努めた。

5. ニーズへの対応

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策により外出できなかったため、代替として園内でできる行事を実施した（ダーツ大会など）。
- (2) 園の畑で収穫した野菜を使用したおやつを提供した。
- (3) 月2回食料品の訪問販売を実施した。
- (4) ネットショップの活用により日用品を購入した。
- (5) 年2回衣料品の訪問販売やバザーを実施した。
- (6) 自分で洗濯が困難となった入所者へ、希望によりクリーニング業者を利用できるように対応した。
- (7) 室内への冷蔵庫設置を希望する利用者への対応を行った。

6. 地域交流活動

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策のため、活動を自粛した。

7. 利用状況

入所者数

	令和6年度			令和5年度			前年比
	男	女	計	男	女	計	
年間延べ入所者数	9,618人	26,438人	36,056人	10,175人	26,178人	36,353人	△ 297人

退所者数

退所理由	令和6年度	令和5年度	前年比
死亡	9人	13人	△ 4人
長期入院	0人	0人	0人
他施設への転所	0人	0人	0人
自宅生活への復帰	0人	2人	△ 2人
その他	0人	0人	0人
計	9人	15人	△ 6人

地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業 福島恵風園デイサービスセンター

1. 運営管理

- (1) 利用者の生活の質の向上のため、サービス担当者会議等に参加し、家族や各居宅介護支援事業所等と連携を図った。
- (2) 外部利用者の送迎を安全安心な体制で実施した。
- (3) 入浴介助については、介護職員を確保し、充実した介助を実施した。また、職員の熱中症予防の為、大型扇風機や冷水を活用した。
- (4) 各種行事については、季節に応じたレクリエーション等を実施した。
- (5) 食事については、栄養士と連携し個々人のニーズに沿って提供した。また、利用者と一緒におやつを作るレクリエーション（おやつレク）も月2回取り入れた。
- (6) レクリエーション・機能訓練等、楽しみながら心身活性化を図った。
- (7) 年2回運営推進会議を開催し、地域との交流・連携を図った。
- (8) 事業所内外の研修に参加し、専門職としての質の向上を図った。
- (9) 事業継続計画（BCP）を基に研修や訓練を実施した。
- (10) 生産性向上委員会を開催し、業務改善を図った。

2. 衛生管理

- (1) 福島恵風園拠点で感染症対策委員会を開催し、様々な状況に応じた感染対策について検討した。
- (2) 空気清浄器の整備を行い、施設内の消毒を1日2回実施し感染予防に努めた。
- (3) 浴槽のレジオネラ菌の検査を年1回実施した。
- (4) インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の対策として、マスクの配布・手指消毒を実施し発生予防に努めた。
- (5) 職員が感染の媒体にならないよう消毒を徹底した。
- (6) パート職員への健康診断（労働安全衛生規則健診Ⅱ）を実施し健康管理に努めた。

3. 施設整備

- (1) 災害時の備蓄品を補給し、再度整えた。
- (2) 熱中症対策としてトイレ前の廊下用に扇風機を購入した。
- (3) 環境整備のため、生垣用草刈り機を購入した。

4. 地域交流活動

- (1) 第29回吉井田地区文化祭に利用者の作品を出展するとともに、事業所のパンフレットを配布した。
- (2) 介護保険事業所共同で、介護予防の為の運動レクリエーション活動、福島隣保館保育所の管理栄養士の協力を得て、栄養講座や調理を実施した。（5回実施）
- (3) 介護保険事業共同で、恵風園内向けの歌や音楽体操等の活動を実施した。（4回実施）

5. 利用状況

	令和6年度	令和5年度	前年比	
年間延べ利用者数	3,196 人	2,940 人	256 人	
1日平均利用者数	12.7 人	12.0 人	0.7 人	
稼働日数	252 日	244 日	8 日	
登録者数(3月31日現在)	44 人	41 人	3 人	
要介護度内訳	事業対象者	1 人	1 人	0 人
	要支援1・2	2 人	3 人	△ 1 人
	要介護1	8 人	7 人	1 人
	要介護2	8 人	10 人	△ 2 人
	要介護3	9 人	12 人	△ 3 人
	要介護4	11 人	6 人	5 人
	要介護5	5 人	2 人	3 人

指定居宅介護支援事業

めぐみの風居宅介護支援センター

1. 活動状況及び事業内容

- (1) 利用者のニーズへの的確な対応及び生活の質の向上を目指し、関係諸機関との連携を図り、総合的かつ効率的な視点に基づくサービスを提供した。
- (2) 福島恵風園、福島恵風園デイサービスセンター、ホームヘルパーステーションめぐみと情報交換や意見集約を行いながら、園内利用者のニーズに即応した円滑な介護サービスの提供が行えるよう連携を図った。
- (3) 指定介護予防支援業務の委託を地域包括支援センターより受け、介護予防、総合事業のケアマネジメントを行った。
- (4) 要介護認定調査の委託を受け、要介護認定調査を行った。
- (5) 各種研修会（オンライン研修を含む）に参加し自己研鑽に努め、質の高いケアプランの作成や相談援助につなげた。
- (6) 地域包括ケアシステム構築に向け、地域ケア研修会への参加や地域の諸団体との連携を図った。また、地域における主任介護支援専門員の役割として、研修の講師補助の協力を行った。
- (7) 利用者、家族の緊急時に対応するために、常時（24 時間）担当者と連絡可能な体制を整え、営業時間以外にも対応を行った。
- (8) 事業継続計画（BCP）での研修や訓練では、同一建物内事業所（事務局、福島恵風園、デイサービスセンター、ヘルパーステーション）と共に取り組んだ。
- (9) 昨年度に引き続き地域貢献事業として、デイサービスセンターとヘルパーステーションと共に、地域の高齢者の介護予防の為に運動教室などを定期的に開催し、好評を得た。

2. 利用状況

	令和6年度	令和5年度	前年比
居宅サービス計画作成件数（月平均）	101.6 件	83.5 件	18.1 件
予防委託件数（月平均）	10.1 件	7.6 件	2.5 件
給付管理年間件数	1,220 件	1,002 件	218 件
認定調査年間実施件数	55 件	40 件	15 件
在宅訪問年間件数	1,696 件	1,389 件	307 件

指定訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業 ホームヘルプステーションめぐみ

1. 運営管理

- (1) 地域の利用者や福島恵風園の利用者を中心にホームヘルプサービスを提供した。
個人の有する能力に応じた日常生活を営むことができるように入浴介助や排泄介助、食事介助などの身体介護、掃除や買い物、調理などの生活援助を提供した。
- (2) めぐみの風居宅介護支援センターや地域包括支援センター、福島恵風園との連携を密にしながら利用者のニーズに十分配慮し、経営基盤の安定に努めた。
- (3) 新型コロナウイルス感染予防策をとりながらのサービス担当者会議への出席により、保健医療サービス、福祉サービス提供事業者との密な連携を図った。
- (4) 利用者のニーズに対応するため、勤務時間帯を必要に応じて変更し、充実したサービス提供に努めた。

2. 事業内容

- (1) 要介護者と要支援者に対して訪問介護を提供した。
- (2) 福島恵風園の利用者が新型コロナウイルスの陽性者となった際には、居宅介護支援事業所の調整連携により利用者の保清のため、入浴や排泄介助などの身体介護のサービス提供を可能な限り行うなど、臨機応変に対応した。
- (3) 定期的な事業所内研修を充実させ、外部研修は新型コロナウイルス感染拡大の状況を見極めて感染の予防に努めながら参加し、オンライン研修なども活用し、職員の資質の向上と専門性の研鑽に努めた。
- (4) ICTを活用し、計画書等の作成・記録業務・情報共有業務・請求業務を一気通貫で行うことで、更なる業務の効率化を図った。
- (5) 園外の在宅利用者の新規依頼を積極的に受け、在宅利用者のサービス提供を行い、地域からの信頼を得られるよう努めた。
- (6) 昨年度に引き続き、介護保険事業所共同で、介護予防の為の運動やレクリエーション活動、福島隣保館保育所の管理栄養士の協力を得て、栄養講座や調理を実施した。(5回実施)
- (7) 介護保険事業所共同で、恵風園内向けの歌や音楽体操等の活動を実施した。(4回実施)

3. 安全衛生管理

- (1) 福島恵風園拠点における自然災害と感染症の業務継続計画（BCP）に基づき研修や訓練を行った。
- (2) 福島恵風園拠点で感染対策委員会を開催し、様々な状況に応じた感染対策について検討した。
- (3) 備蓄したマスク及びフェイスシールド等のウイルス対策用品を使用して換気や消毒を徹底し、新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染対策に努めた。
- (4) 出勤前の検温及び健康チェックを実施し、必要時には定期的な抗原検査を実施し、職員の健康管理を行った。
- (5) 万が一感染者が発生した場合に媒体とならないよう消毒を徹底し、感染拡大予防に努めた。
- (6) 腰痛予防や転倒予防についての研修を重ね、スライドボード・スライドシートの使用や支援員の協力を得て二人体制で移乗介助するなど、安全に業務を遂行するよう努めた。
- (7) 熱中症対策としてアイスバストを取り入れて使用し、職員の健康管理に努めた。
- (8) パート職員への健康診断（労働安全衛生規則検診Ⅱ）を実施し健康管理に努めた

4. 利用状況

		令和6年度	令和5年度	前年比
年間延べ利用者数		15,572 人	13,696 人	1,876 人
1日平均利用者数		42.7 人	37.5 人	5.2 人
年間累計利用回数		25,213 回	21,449 回	3,764 回
稼働日数		365 日	365 日	0 日
要介護度内訳	登録者数（3月31日現在）	53 人	50 人	3 人
	要支援1・2	3 人	0 人	3 人
	要介護1	8 人	7 人	1 人
	要介護2	9 人	15 人	△ 6 人
	要介護3	15 人	20 人	△ 5 人
	要介護4	11 人	6 人	5 人
	要介護5	7 人	2 人	5 人

老人福祉センター（福島市指定管理施設） 福島市わたりふれあいセンター

1. 運営管理

高齢者が健康で明るく楽しい日々を過ごすために、浴室や休憩室、健康増進器具等を整備し、囲碁・将棋及び図書等の娯楽用具を配置することにより、利用者に潤いと憩いの場を提供した。

また、専門職による健康相談や生活相談などの実施や児童センターを利用することもたちとのふれあいを通して、高齢者の心豊かで生きがいのある暮らしに寄与した。

2. 活動状況

- (1) 感染症基本対策の継続など、利用者の安全・安心の確保に努め、事業目的の達成に努めた。
- (2) 地域福祉の向上に寄与するため、地域の各種機関、団体との連携を図り、施設を地域コミュニティ活動の場として利用の促進を図った。
- (3) 高齢者と児童が交流する機会をつくることにより、高齢者の生きがいと社会参加の促進を図った。
- (4) 利用者が活動しやすい雰囲気づくりに努めた。
- (5) 利用者の生活相談や健康相談、健康講座、入浴施設及びホールの開放等を実施した。
- (6) 遊戯室を開放し、卓球・バドミントン等の利用に活用したほか、2階視聴覚室でカラオケクラブを定期的実施した。

3. 利用状況

	令和6年度	令和5年度	前年比
一般利用者数	17,652人	16,942人	710人
上記のうち入浴者数	16,359人	15,672人	687人
一日平均利用者数	52人	50人	2人
開館日数	339日	339日	0日

生きがい型デイサービス・外出支援事業（福島市受託事業） 福島市渡利デイサービスセンター

1. 運営管理

在宅で生活する介護保険対象外の比較的元気な高齢者及び家に閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者を対象に、外出と社会交流の機会を提供することにより、社会的孤立の予防と自立した「生きがいのある生活」の維持向上に努めた。

2. 活動状況

- (1) 市の委託事業として、利用者の確保と各種行事の実施により、円滑かつ安定した

事業の推進を図り、事業目的の達成に努めた。

- (2) こどもたちとの世代間交流を推進し、高齢者の生きがいづくりと社会参加を促進した。
- (3) 利用者の健康や生活の維持・向上のため、関係機関との積極的な連携に努めた。
- (4) 送迎、昼食、入浴等のサービス提供及び創作活動、趣味活動、日常動作訓練等を実施した。

3. 利用状況

	令和6年度	令和5年度	前年比
延べ利用者数	1,622人	1,454人	168人
一日平均利用者数	7人	6人	1人
稼働日数	233日	239日	△6日

保 育 所

福島隣保館保育所、福島保育所、瀬上保育所 福島わかば保育園、福島ふたば保育園、飯坂保育所

1. 運営管理

- (1) 保護者が安心して預けられるよう質の高い保育に努めるとともに、子どもの生命保持と健やかな生活の基本となる健康安全の確保に当たった。
- (2) 養成校（保育士・看護師・栄養士）からの実習生を受け入れ、人材育成に努めた。
- (3) 定期的にホームページを活用し保育所（園）や子どもの様子を発信した。
- (4) 幼保小中との交流（小学校での研修、小学校見学）を行い、小1プロブレムに対応できるように連携をとった。
- (5) 地域における公益的な取組として、ホームページを活用し子育て情報「みんなで子育て」の発信を継続的にを行い、地域の子育て支援の充実を図った。

2. 保育状況

- (1) 保育理念のもと、全体的な計画に基づき発達段階に応じた保育に努めた。
- (2) 適切な環境を整え、一人ひとりの子どもを受容し、情緒の安定を図り、養護と教育の一体的な提供に努めた。
- (3) 保護者との共通理解のもと、家庭保育と集団保育との相互関係を大切にしながら保育を進めた。
- (4) 食育活動として、季節の食材に触れることやクッキング活動等を通して、望ましい食生活について周知し、健全な心と体を育てた。
- (5) 子ども達の心身の発達を阻害する事象を見逃さないように関係機関との連携に努めた。
- (6) 「福島市特色ある幼児教育・保育プロジェクト」にエントリーし、2施設ずつ4,5歳児の交流を行い、広く食育活動を実施した。

3. 食育状況

- (1) 食育年間計画、食育目標、食育方針を作成し、季節、年齢、発達段階に応じた食事の提供を行った。
- (2) 食の嗜好を常に把握しながら食事を提供し、保護者との連携を密に乳幼児の食生活の指導を行った。また、食材についても、地産地消を中心に新鮮かつ旬の食材を提供した。
- (3) 食育の促進について、保育士と栄養士との話し合いを深め全職員で取り組んだ。
- (4) 医師の診断を基に、アレルギー除去食を実施した。
- (5) 食中毒防止に留意するとともに、保護者への周知に努めた。
- (6) 食べ物による窒息事故を防ぐために、マニュアルに基づき調理方法を工夫し安全に提供した。

4. 健康管理

- (1) 嘱託医による乳児健診、内科健診（年2回）、歯科検診（年1回）を実施、また、専門機関による3歳以上の尿検査を実施した。（年1回）
- (2) 身体測定（毎月）を実施して、成長発達状況の把握に努めた。
- (3) 虫歯予防のため、嘱託医の指導の下、4、5歳児以上のフッ化物洗口を行った。
- (4) 様々な感染症が年間を通して流行したため、感染症予防に努めた。

5. 安全管理

- (1) 危機管理マニュアルに基づき、建物、器具、遊具等の点検を行い、安全管理に努めた。
- (2) 避難訓練・消火訓練は毎月行い、総合訓練は消防署に依頼し、訓練を行った。
- (3) 児童にわかりやすい防災・防犯の指導に努めた。
- (4) 交通安全指導において絵本や紙芝居を用いた実地指導を実施した。
- (5) 保育所の個人情報の取扱いにおいては、関係者の同意を得ながら慎重に行った。
- (6) 乳幼児の睡眠の安全管理のために、0歳児のマット型センサーでの確認と全年齢目視での確認を行った。
- (7) 保護者連絡を電話、メールだけでなく、災害時において連絡方法を確保するため、アプリを導入した。

6. 保育の質の向上

- (1) 施設外研修に参加した。
 - ①各部会（施設長、主任保育士、保育士、給食担当者）研修・研究会への参加
 - ②オンライン研修への参加（福島県社会福祉協議会、福島市、指定キャリアアップ等）
- (2) 施設協会内研修を実施した。
 - ①年間テーマに基づいた年齢別研修の実施
- (3) 施設内研修を実施した。
 - ①全体的な計画に基づき保育計画・行事等の検討及び反省
 - ②園外研修参加者による報告

③施設ごとにテーマを設定した自主研修

④「人権擁護のためのセルフチェックリスト」による自己点検

7. 利用状況

保育所名	定員	年間延べ利用者数											
		0歳			1歳			2歳			3歳		
		R6	R5	前年比	R6	R5	前年比	R6	R5	前年比	R6	R5	前年比
福島隣保館保育所	120人	13人	16人	△ 3人	23人	20人	3人	20人	20人	0人	23人	24人	△ 1人
福島保育所	120人	12人	12人	0人	18人	18人	0人	18人	18人	0人	25人	27人	△ 2人
瀬上保育所	80人	7人	9人	△ 2人	13人	11人	2人	14人	15人	△ 1人	16人	16人	0人
福島わかば保育園	60人	11人	9人	2人	12人	11人	1人	11人	10人	1人	10人	12人	△ 2人
福島ふたば保育園	90人	9人	12人	△ 3人	16人	15人	1人	17人	17人	0人	17人	18人	△ 1人
飯坂保育所	90人	10人	12人	△ 2人	15人	14人	1人	14人	14人	0人	17人	17人	0人
合計	560人	62人	70人	△ 8人	97人	89人	8人	94人	94人	0人	108人	114人	△ 6人

保育所名	年間延べ利用者数											
	4歳			5歳			合計			充足率		
	R6	R5	前年比	R6	R5	前年比	R6	R5	前年比	R6	R5	前年比
福島隣保館保育所	23人	23人	0人	23人	24人	△ 1人	125人	127人	△ 2人	104.2%	105.9%	△ 1.7%
福島保育所	27人	25人	2人	24人	29人	△ 5人	124人	129人	△ 5人	103.4%	107.5%	△ 4.1%
瀬上保育所	15人	16人	△ 1人	16人	17人	△ 1人	81人	84人	△ 3人	101.3%	105.0%	△ 3.7%
福島わかば保育園	10人	8人	2人	8人	13人	△ 5人	62人	63人	△ 1人	103.4%	105.0%	△ 1.6%
福島ふたば保育園	18人	19人	△ 1人	19人	16人	3人	96人	97人	△ 1人	106.7%	107.8%	△ 1.1%
飯坂保育所	17人	19人	△ 2人	18人	18人	0人	91人	94人	△ 3人	101.2%	104.5%	△ 3.3%
合計	110人	110人	0人	108人	117人	△ 9人	579人	594人	△ 15人	103.4%	106.1%	△ 2.7%

地域子育て支援拠点事業(福島市受託事業)

わかば子育てセンター・せのうえ子育て支援センター・いいざか子育て支援センター(5日型)

1. 運営管理

核家族化、少子化とともに、父親の育児休暇取得など家庭機能の変化、地域社会とのつながりの希薄化が一層進む中で、子育て中の保護者やこれから産もうとしている人たちの抱く不安や悩み、孤独感をくみ取り、寄り添う支援を意識して事業を行った。

また、センターが地域における子育て支援の拠点となるよう、各種事業を推進するとともに、地域の関係機関・子育てサークル・施設との連携を図った。

2. 事業内容

(1) 子育て親子の交流の場の提供及び交流の促進

- ① 利用者に応じた環境設定を充実させるために、電話予約申し込みを行った。
- ② 利用年齢の低年齢化が進み、0歳児が利用登録総数の半分を超すほどになっている。その多くが育児休業で、満1歳の頃に職場復帰を予定しており、保育所の途中入所ができるだろうかとの不安な声が多く聞かれた。
- ③ 日によって利用者人数はまばらだが、少人数のため利用者同士や職員との交流が深まり、子どもの成長や家庭の悩み、子どもを遊ばせる場や施設情報などを話す場となった。
- ④ 3センターは変則的に午後のひろばが利用できる5時間開設を工夫し行ってきた。

利用件数は少ないが、相談を目的とした利用もあった。今後も引き続き検討し受け入れをする。

- ⑤せのうえ子育て支援センター事業は、専有スペースの確保が難しく、検討課題となっている。

(2)子育てに関する相談、援助の実施

- ①相談のほとんどがひろば利用時に受けるものであった。内容は、幼稚園・保育園入園や食事、イヤイヤ期子どもの成長発達についてのことなどで、子育てに関する情報など利用者同士で話し合い、つながりの持てる場となるように配慮した。
- ②利用者が幼稚園、保育園に入園した後も、園の休みや長期休みにセンターを利用する親子もおり、子育ての場、相談の場として長く期待されるものとなっている。

(3)地域の子育て関連情報の提供

- ①毎月のセンターだよりの発行やホームページの更新、福島市の子育てアプリ「母子モ」の運用など子育て支援に関する情報の発信に努めた。
- ②学習センターや近隣スーパー、クリニックなどにポスター掲示の協力を得て、センター活動の情報提供を行い、更に各種子育てに関するチラシの配布を行った。

(4)子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ①親子教室は、少人数で複数回行うなどして、参加機会を確保した。離乳食講座は、情報が少ない中初めて取り組む保護者にとっては大切な情報を得る場になっており、開催が期待されていた。
- ②3センター合同で行った講演会は、わかば子育て支援センターのホールを広く使い、ハロウィンにちなんだフェスタを普段仕事で参加できない保護者も参加できるように土曜日に開催し、多くの親子が楽しめる場となった。

(5)関係機関との連携・事業協力

- ①3センター各々が家庭学級、子育てサロンなどの支援を行いながら地区担当保健師や民生児童委員との交流を持ち、地域の子育ての状況把握に努めた。
- ②子育て支援センター連絡会やサークル連絡会は、定期的開催され、各支援センターと情報交換や講師を迎えての講習会を行った。サークル連絡会の開催では参加状況を見ながらセンター職員の参加見直しなども行った。
- ③「こんにちは赤ちゃん訪問」事業による乳児家庭全戸訪問において「こんにちは赤ちゃん応援隊」の保健師からの情報や、紙おむつ配布のチケットがあったため、センターへの問い合わせ、利用へとつながった。

3. 利用状況

センター名	利用者延べ人数							子育て相談件数		
	令和6年度			令和5年度			差異	令和6年度	令和5年度	差異
	大人	こども	計	大人	こども	計				
わかば	1,079人	1,152人	2,231人	829人	916人	1,745人	486人	48件	81件	△ 33件
せのうえ	990人	1,042人	2,032人	1,051人	1,213人	2,264人	△ 232人	113件	119件	△ 6件
いいざか	845人	897人	1,742人	1,078人	1,326人	2,404人	△ 662人	69件	103件	△ 34件
計	2,914人	3,091人	6,005人	2,958人	3,455人	6,413人	△ 408人	230件	303件	△ 73件

児童厚生施設

設置運営施設

福島市東浜児童センター 福島市野田児童センター

福島市指定管理施設

福島市蓬莱児童センター 福島市清水児童センター

福島市渡利児童センター

1. 運営管理

地域の児童健全育成の活動拠点として、子どもの健全な遊びなどを通して、地域における遊びの援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し、情緒を豊かにすることに努めた。

また、継続して感染症等への危機管理を徹底し、管理運営を行った。

2. 活動状況

- (1) 子どもが遊びによって心身の健康を増進し、知的・社会的能力を高め、情緒を豊かにするよう援助した。
- (2) 子どもの自主性を尊重し、同年齢や異年齢の集団を形成してさまざまな活動に取り組めるように援助した。
- (3) 子どもの自己効力感や自己肯定感が醸成できるような環境づくりに努め、子どもが安全に安心して過ごせる居場所とした。
- (4) 子どもの意見を尊重し、子どもが自発的に活動できるように努めた。
- (5) 配慮を必要としている子どもの早期発見に努め、法人内公益的取組「包括的相談事業」の活用や関係機関等と連携を密にして対応した。
- (6) 幼児クラブなど、子どもと保護者が自由に交流できる場を提供するとともに、子育て支援の一翼を担うように努めた。
- (7) 活動内容等を広報するとともに、地域のさまざまな育成活動に協力しながら、地域全体で健全育成を進める環境づくりに努めた。
- (8) 学生ボランティアを積極的に受け入れるとともに、地域住民がボランティア等として活動に参加できる機会を提供した。
- (9) 児童センターの持つ拠点性・多機能性・地域性を生かして放課後児童クラブを実施するとともに、登録児童と自由来館児童が交流できるよう遊びや活動に配慮した。
- (10) 個人情報の取扱等に配慮し、子どもの安全・衛生管理や防災・防犯対策に努めた。
- (11) 職員の資質向上を図るため、継続的な研修実施に努めた。
- (12) 感染対策マニュアル等に基づき、感染予防に努めるとともに、児童の健全な活動の確保に努めた。
- (13) 施設の改修工事及び整備については、中長期計画を基本として計画的に進めた。
- (14) 活動の充実を図るため、広く意見を聴収した。

3. 利用状況

年間利用者数内訳

区 分		東浜	野田	蓬萊	清水	渡利	合計
利用者数	幼児	1,366人	488人	642人	320人	1,058人	3,874人
	1～3年	5,595人	10,450人	5,517人	10,214人	12,913人	44,689人
	4～6年	2,041人	1,398人	916人	2,216人	856人	7,427人
	中高生	244人	855人	924人	950人	326人	3,299人
	大人	1,439人	1,097人	907人	731人	1,539人	5,713人
	計	10,685人	14,288人	8,906人	14,431人	16,692人	65,002人
	上記のうち登録児童	3,520人	8,461人	4,703人	8,627人	10,806人	36,117人
	1日平均利用者	36.3人	48.5人	30.2人	48.6人	56.8人	44.1人
開館日数	295日	295日	295日	297日	294日		

年間総利用者数

施設名	令和6年度	令和5年度	前年比
東浜児童センター	10,685人	6,476人	4,209人
野田児童センター	14,288人	10,013人	4,275人
蓬萊児童センター	8,906人	7,911人	995人
清水児童センター	14,431人	11,558人	2,873人
渡利児童センター	16,692人	15,618人	1,074人
計	65,002人	51,576人	13,426人